

令和元年度 稲沢市地域自立支援協議会 第1回地域生活支援部会 議事要旨

[日 時] 令和元年 5 月 23 日（木）午後 2 時～午後 3 時 40 分

[場 所] 稲沢市社会福祉会館 1 階 集会室

[欠席者] なし

[議 事]

1 協議事項

(1)継続課題について

①昨年度の活動について

医療的ケア児支援について

- 稲沢市第1期障害児福祉計画にあるとおり、障害児支援の提供体制の整備等として関係者の協議の場を平成30年度に設置する方針であった。
- それ以前から、医療的ケアを要するお子さんが市内の地域の小学校に通っている事例があり、その子についての支援体制についても議題にあがっていた。
- 昨年度は関係者の協議を行うにあたり、市内の医療的ケア児の現状についてアンケート調査をし、12人いることを把握した。
- 医療的ケア児を取り巻く環境が厳しく、利用できる支援が少ない等、問題が色々あり、医療的ケア児の現状や支援について学ぶため、講演会を実施した。
- 今後は、定期的に関係者の会議を行い、ネットワークを広げ、医療的ケア児の支援の充実のために関係者が協力して、できることをしていく必要がある。

地域生活支援拠点等の整備について

- 地域生活支援拠点等の整備の趣旨は、障害のある人の重度化や高齢化、親亡き後の備えや、入所や入院施設から地域への移行を進めるため、重度障害の方でも支援できる体制、緊急の場合でも対応できる体制を地域で整えるもの。
- 具体的には、相談の体制、一人暮らしやGHでの体験、緊急時の受け入れ体制の確保、専門性の確保、地域の体制づくりの5つが挙げられていて、来年度末までに体制を整備する。
- 稲沢市の予定としては、地域の各機関が連携しながら対応していく方式（面的整備型）を整えていく。
- 昨年度は、GHや入所施設、相談支援事業所の方が、制度に関する情報を理解したり、市内の事例について課題の共有などを行った。
- 今後は、緊急時の受け入れや体験の場の利用等について、関係機関がどう連携、協力すれば整うか具体的に検討していく。

個別の支援会議からの課題について

- GHでの支援の充実
施設数としては、少しずつ増えている。一部で土日の開設がないところがある。重度

の方の受け入れができる体制、専門性が望まれる。

○生活介護（通所施設）の充実

看護、入浴体制のある施設や、重度の方でも通える施設（区分5、6、行動障害伴う方など）が少ない。

○児童の支援、複合的な課題のある家庭への支援

障害児の支援については、家庭での生活の問題や、学校での学習、通学の問題などがある。親御さんも障害があると、就労や家計など他分野の問題も重なり、他機関と連携して支援が必要になる。

(2)今年度の活動について

○①、②は昨年度からの継続課題で、今年も引き続き検討していく。③については、こどもについて協議する場がなかったため、今後部会にしていくための準備をする。部会は年4回だが、担当に分かれて掘り下げるのが作業部会。部会委員だけでなく、必要な方を呼んでいく。部会日程は決まっているが作業部会はこれから役割を決めて、それぞれ年3回程予定している。

○医療的ケア児支援ネットワークは、既にネットワーク会議を立ち上げて昨年3回開催した。今のメンバーは、相談支援事業所、訪問看護ステーションや、小学校の特別支援教育コーディネーター、医ケアに対応している通所事業所、保健師、一宮特別支援学校、医師会の在宅医療サポートセンターの方、保育課の方などに声をかけている。参加したい人が誰でも参加してもらえる方針。先々は医療機関も参加していただきたい。来たい人が来られる会議にしたい。現状16名ほど。色々課題を挙げてもらう中で、昨年からコーディネートする人材を育成する研修が始まった。事務局が2名参加した。次回は研修の話をきく。

○現在1名の方が地域の学校に通っていて医ケアが必要。看護師は、実際は看護師として配置できず学校支援員として配置している、この点も医ケア児支援については改善すべき点でないか。医ケア児を受け入れるにあたり保育や学校はどこでも難しいので、場合によっては拠点校を地域において越境してケアを受けられる学校が出来ていったら良いのではという意見になっている。

○担当は脇田委員、田中委員、日比野副部長、近藤委員、部会長は全て入ります。

○地域生活支援拠点等の整備は、国の方針である。作業部会では市が整備するためにどういった仕組みが良いか意見を提言してもらう役割を担っていただく。相談支援事業所、グループホームの方、入所施設の方に参加していただいている。2年間、より良い仕組みづくりのために話し合いを続けていきたい。森川委員、加納委員、梶田委員にお願いしたい。他に医療機関として坂本委員にもお願いしたい。梶田委員には、別でヘルパー連絡会の立ち上げにつけても力を貸していただきたい。他の事業所への声掛けをお願いしたい。市内に事業所がないサービスもある。現在、相談や就労、児

童の通所、居住系の事業所同士の連絡会を作っている。

- こども部会（仮）設置について濱野委員、岡島委員にお願いしたい。通所事業所連絡会には参加していただいていると思う。これは事業所同士が情報交換や課題を話し合うものだが、部会ではこどもの問題全体の話をする。部会長も事務局も参加します。
- 差支えなければ、濱野委員には医療的ケアネットワークにも参加して頂けたらと思います。それぞれの作業部会で動いていただいて、部会では報告や相談ができる場としていく。
- 作業部会の中心となる方について、昨年度は部会長が全て行ってきたが、それぞれ別をお願いしたい。医療的ケア児ネットワークは日比野副部会長、他に部会委員の方が取り回しをしていただくと良いが、将来的にはコーディネーターの方が中心となっていただけると良い。拠点等の整備については、森川委員、加納委員もフォローお願いしたい。こども部会については、濱野委員にお願いする。
- 次回の部会は8月1日だが、それまでに1回ずつは作業部会を行う予定。
- 個別支援会議について、自立支援協議会では個別支援会議からの課題を検討していくこととなっているが、個別支援会議とは相談支援事業所が日々地域で相談業務を行っている中で困った課題を地域の課題として挙げ、それが協議会で報告され、それぞれの部会で検討してくださいと振り分けられる。今の課題は作業部会の3つだが、新たな課題が出てきて幅広い話題になるかもしれない。任務が終われば作業部会は解散するが、今のところ3つは継続している。
- 6月10日の医ケア会議では、1月講演会のアンケートに参加希望として回答した方に案内出していく。
- セブンベルクリニックの柳瀬先生にも講演会でコメントをいただいたので、お願いにいかないといけない。午前中の会議なので難しいと思うが、次は声掛けしたい。
- 昨年度最後の作業部会の時に医ケア児のサービスをまとめたものが必要ではないかとの意見があり、とりあえず訪問看護ステーション一覧を作成していただいたが、また意見があれば進めていく必要がある。
- こども部会の設置について障害福祉計画に関して令和2年度に令和3年度からの計画を作成するにあたり、今年度中に、どんなことをアンケートで拾っていくのが良いか意見を頂けると良い。メンバーももう少し増やしていただき、集めていきたい。日々事業所で関わっている保護者の方からの話を聞く中で見つけて行けると思う。